

2. モモ‘浅間白桃’の徒長枝管理

[要約]

樹勢が強い場合、徒長枝の切り返し（せん除）が有効で、遅くとも6月中旬（開花60～70日後）までに行う。切り返し後に発生した再伸長枝は、翌年の結果枝として利用できる。また、ねん枝の併用も受光体制の改善に効果的である。

研究室名	果樹研究室 化学研究室	連絡先	0869-55-0271(内線 230)
------	-------------	-----	----------------------

[背景・ねらい]

モモでは徒長枝が多く枝葉が過繁茂になると、結果部位が暗くなり、果実糖度が低い。結果部位の受光体制を良好にするため、徒長枝のせん除やねん枝が慣例的に行われている。しかし、その適期や方法については明らかでない。そこで、受光体制を良くする枝管理法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 放任した徒長枝は8月中旬まで伸長し、長さ 120cm 前後に達する（図1）。6月中旬に徒長枝の基部から5～10cm 残して切り返しを行うと、その後、再伸長が認められ、平均して 30cm 前後の長さに達した。一方、7月初旬ないしは中旬に切り返しを行った場合、全く再伸長はないか、伸長しても著しく短く、平均して 5 cm に達しなかった（図2）。
2. 再伸長しなかった枝には、枯れ込みが入る場合があり、7月に切り返した区で多かった（表1）。
3. 再伸長した枝の花芽は、6月中旬の切り返しでは枝長 10cm 当たり 4 個程度であったが、7月に切り返した区ではほとんどなかった（表1）。また、6月に切り返した区では翌年の花の大きさが対照とほぼ同じであった（表2）。
4. 切り返しを6月上旬まで早めても、再伸長はやや抑制されるが、残存部の枯れ込みには大きな差はなかった（表3）。
5. 主枝や垂主枝直上から発生した徒長枝のうち、50 %程度を基部から5～10cm 残して6月中旬に切り返し（せん除）すると、翌年の結果枝が確保できた。

以上の結果、徒長枝せん除を行うには、遅くとも6月中旬（開花 60～70 日後）までに行うのがよく、切り返し後に発生した再伸長枝は翌年の結果枝として用いることができる。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験では浅間白桃を供したので、清水白桃については検討中である。

[具体的データ]

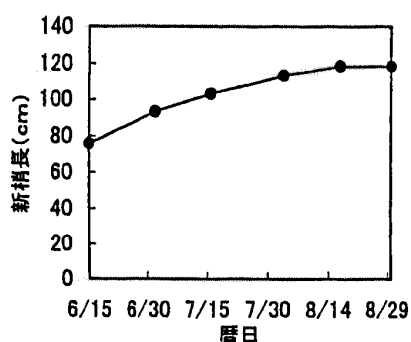


図1 放任 区の徒長枝長
(平成11年)

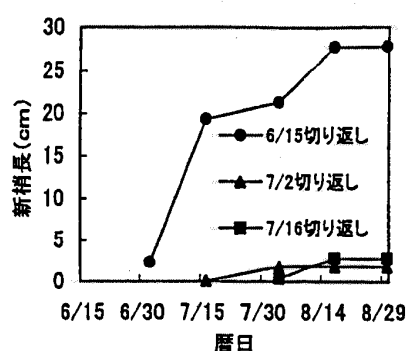


図2 徒長枝の切り返し時期が再伸長枝の生長に及ぼす影響 (平成11年)

表1 ‘浅間白桃’の徒長枝切り返し時期が
残存部の枯れ込みと再伸長枝の花芽数
に及ぼす影響 (平成11年)

処理区	枯れ込み率 (%)	再伸長枝10cm 当たり花芽数
6/15区	0	3.45
7/2区	50	0.10
7/16区	30	0.25

表2 ‘浅間白桃’徒長枝の切り返し
が再伸長枝上の花の大きさに及ぼす影響

処理区	子房横径 (mm)	子房基部から柱頭 までの長さ (mm)
再伸長区	3.33	17.00
対照区	3.48	17.35

注：平成11年6月15日切り返し、平成12年4月調査

表3 ‘浅間白桃’の徒長枝切り返し時期が枯れ込み率
と再伸長枝の生長に及ぼす影響 (平成12年)

処理区	枯れ込み率 (%)	再伸長率 ^{a)} (%)	再伸長枝長 ^{b)} (cm)
6/5区	10	60	13.0
6/10区	20	60	41.6
6/15区	10	90	31.0

^{a)}切り返した枝数のうち再伸長した枝数の割合

^{b)}再伸長した総枝長を再伸長があった徒長枝数で割って求めた

[その他]

試験研究課題・事業名：高糖度モモ生産のための栽培管理指標の策定

予算区分：県単

研究期間：平成9～13年度

関連情報等：平成11年度試験研究主要成果：高糖度モモ園の生育特性